

# 写真に見る

## 1115年前の長崎

### 日露戦争時代

一 順野 姫

□ 34 □



①明治33年の大音寺山門（竹下佳治撮影、長崎外国語大所蔵）

## 明治30年代の大音寺

# 改修繰り返した“三大寺”

写真①は、明治33（1900）年に撮影された浄土宗大音寺（今籠町5番地、現鍛冶屋町5の87）の山門である。木造・本瓦葺き・切り妻造りで、正面には大覚山の額が見える。右の建物は門番住宅。幔幕には葵の紋が見える。この寺は維新後、徳川家が帰依した浄土宗の関東十八檀林（仏教学問所）の一つ、水戸浄福寺の高い寺格を引き継いだ。皓台寺、本蓮寺と共に、幕府に庇護された長崎三大寺の一つ。

左の門柱には、明治33年の開山伝警上人250年回忌の説教看板がかかる。その左には明治32年1月3日に長崎県が布達した、車馬乗り入れ、魚鳥捕獲、竹木伐採を禁じる立て札が立つ。二基の灯籠はフェートン号事件が起こった文

化5（1808）年に惣町中が寄進した。門は寛永18（1641）年に創建され、火事などでたびたび再建と改修を繰り返した。

写真②は本堂である。木造・瓦葺き・単層・入り母屋造りで、屋根には葵の紋が見える。浜縁に高欄を巻き、昇降口を覆う部と外陣の天井は紫宸殿造りであった。この建物も火事と台風で改修された。幕末にイギリス人写真家フェリーチエ・ヘアットが撮影した写真では、松の木は植えたばかりであったが、34年を経て大きく成長している。市内の古松は明治37（1904）年の春から大正6、7（1917、1918）年の間に枯死する。

現在地に移転した。幕府から地子免除の朱印状を公布され、本堂背後の御霊屋には歴代の天皇と將軍の位牌を祭る。

明治維新で特権を失うが、木造の本堂は原爆投下後も焼け残り、戦後放火により消失した。昭和37（1962）年に鉄筋コンクリートで再建され、堂前のソテツは健在である。（長崎外国語大学長）

この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大のホームページ（<http://www.nagasaki-tf.jp/>）  
- gaigo.ac.jp/recnas/newspaper/）で見ることができます。



②明治33年の大音寺本堂（竹下佳治撮影、長崎外国語大所蔵）



のページに  
大音寺の  
ホームページ  
からアクセス  
できるQRコード

随時掲載します